じゃりみち

‥‥仮設支援情報‥‥

第34号　　発行日　1997.2.6

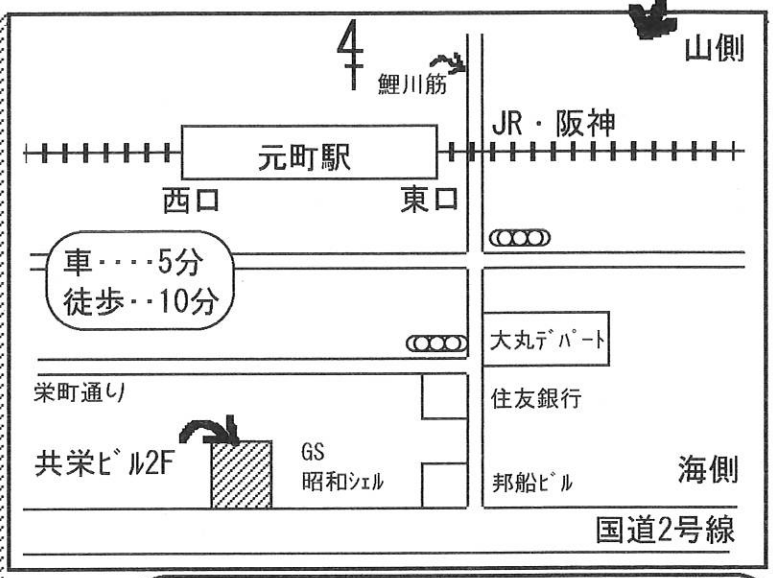
阪神・淡路大震災
「仮設」支援ＮＧＯ連絡会
〒653　神戸市長田区御蔵通5-5
TEL：078-578-6921 / FAX: 078-578-6923
E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp
口座番号：01180-6-68556　（郵便振替）

４週間ぶりのじゃりみちです。お待たせしました。市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラムも無事終わりました。さすがにくたばり１回お休みしてしまいました。すみません。

さて、そんな間にも全体会は開かれ、そして次回のお知らせです。次回は前回の全体会で事務局横のプレハブは寒い!!!と言う声がありましたので場所を変更いたします。ご注意ください。

2月12日（水）　18:30～　阪神・淡路コミュニティ基金事務局の隣の会議室

阪神・淡路コミュニティ基金事務局（元町）



〒650神戸市中央区海岸通2-1-2 共栄ビル2Ｆ
TEL　078-333-4335　※駐車場はありません！

全体会の報告　1月8日（水）

昨年の12月11日の全体会で東 條さんから提案された「全員発言」をしました。ひとりひとりが発言することでいろいろな課題が見えてきました。8日に気になった発言は、「年末年始、役所が休みだったこともあり、ヘルパーさんが来ずに、3日間何も食べずの老人がいた。」というもの。これはここに限る問題ではありません。こういった課題をこれからどうしていくのか？という提案に、グループアバウトの星加さんがこんな提案をしてくれました。

＜全体会のほかに集まりを持ちたい。＞

いつ：全体会のない週の水曜日。
どこで：長田・元町どこでも。
誰が：誰でも。事務局から１人（以上）
何を：気楽な情報交換・情報交換
何故：会の回数不足、事務局会議の延長、全体会よりも気楽にざっくばらんに。
理由：意見交換の時間の少なさ。
違い：決議権を持たない。

興味のあるグループだけで集まってもいい。テープも議事録もとらず、次回の全体会に報告していく。全体会で言えないことを気楽に。

みんなの意見‥‥
・必要に応じてこのＮＧＯに集まるのは面白いと思う。
・全体に声をかけてもいいし、別の人が集まってもいい。
・毎週やらねば、とは考えていない。不定期でいい。
・寺子屋的なものをしたい。具体的な勉強会を。ＮＰＯ、公的補償‥‥。
・ボランティア仲間なのだからもっと気楽に話したらいいのに。雰囲気作りをお互いにしていかないといけない。司会は非常にいい勉強になるよ。やってみたら？参加者の人たちも司会に意思表示をしてあげないければいけない。
”みんなで盛り上げていこうこの「仮設」ＮＧＯ！”原点は何なのか？ということをしっかり押さえていこう。言語化の必要性！

結論：星加提案について、承認。原則として水曜日に、必要に応じて開催。決議権はない。話し合われたこと、次回の連絡等は全体会で報告。具体的には29日に話し合う。

星加さんの提案はみんなの拍手のもと承認され、次の議題に。

＜移送サービスについて＞

年末に、「コーディネーターに対してみんなで応援しよう」というのは承認された。では、継続していくには？具体的なことを決めて行きたい。

みんなの意見‥‥
・金の出方はきっちりしたほうがいい。
・共通理解を深めた方がいい。
・共同プロジェクトと委託事業とどう違うのか？
・これらは根本的な問題になるから、それこそ提案された星加さんのを利用してやってみてはどうか。
・とりあえず１月～３月までとして、次回また別のプロジェクトも考えられるので、その都度考えて行けばいいのではないか。歩きながらのものである。

結論：コーディネーターに資金補助を行うことについて、期間は３ヶ月（年度末）とし、金額は５万円とする。年度末の報告で再考する。あくまで継続を前提として。

全体会の報告 1月29日（水）

前回はまず1月18～19日にかけて行われた市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラムの報告から始まりました。そして、いままでの何回かの全体会の中で、コミュニケーションの大切さの確認をしてきた中から行い始めた「全員発言」。これがいかに重要か痛感しました。今回の全体発言でも、とても大切なことが一人一人の発言に含まれています。

＜全員発言＞　（抜粋）

♣公営住宅に入りたい人が、ペットがいるために申し込んでいないという人が結構いる。けっこうペットが心のケアに役だっているケースも。私たちも応援をしたい。

★ふれあいセンターをどう使うかが話題になっていて、地域の老人をまき込んでの活動を考えている。これからは地域の高齢者の課題も仮設住宅の課題と平行して考えていきたい。

◆仮設住宅から公営住宅に移るに当たって、仮設住宅の方が環境がいいということからキャンセルも出てきている。つまり市街地で風呂も近く、友人もできて･･･遠くに行くのは考えられないという。市街地の仮設住宅の問題である。

♠民生委員の方より子どもの支援不足が課題としてあがった。親の問題が非常に多い。

＜移送ボランティア、共同プロジェクト、フェリシモプロジェクト、委託事業の違い＞

前回話し合いの中で「４つの事業の違いは何か？」という質問が出たので、解りやすく説明しました。

1996年４月１日　今年度の事業方針
最大課題として共同プロジェクト（最大の柱）をたち上げ、承認。

最大の柱 共同プロジェクト

ふれあいセンターでのコミュニティつくり
移送サービス
被災地とのネットワーク
心のケア
保育（子ども関係）
デイケア

具体的に進めていく中でフェリシモ（企業）からの助成金の話。

フェリシモプロジェクト

会則を作ったが、あくまで「緩やかなネットワーク」ということから、普段ほとんど参加していない団体でも出し、また申し込み期限も緩やかに。共同プロジェクトとは同じものではない。

そして、

委託事業

全国キャラバン：プロジェクト結ふ
セミナー：プロジェクト1-2
記録：藤本さん

事務局が担いきれない作業を他の団体さんに委託することで、委託費としてその団体をサポートすると同時に事務局の作業をカバーする。これらは毎回全体会で承認を得た上、開始している。これから他に出てくる可能性もあり。

一方、

共同プロジェクトの中から･･･

移送サービス

共同プロジェクトとしてしっかり軌道に乗りはじめたのが、移送サービス。各団体さんとの連携の中からコーディネーターの必要性が出てきた。そこでみんなでカバーしていこうということになる。

フェリシモプロジェクトには入っていない。

「コーディネーターへの支援」ということで、新しい事業になる。

全体会のない週について

1月8日の全体会で決まった会について、さっそくいくつかの提案がありました！

1 次回水曜日は来年度の事業方針を検討していきたい。
2月5日（水）19:00～
仮設」ＮＧＯにて。

2 この前の水曜、移送サービスとして関わる人とミーティングをし、課題として、車両・被災者・ボランティア等の保険があがった。社協の馬場さんを呼んで、勉強会をしようということになる。ぜひ参加を。
2月5日（水）17:00～
県社会福祉協議会のボランティアセンターにて。

3 日本海重油災害について、「仮設」ＮＧＯとしてどうとりくむ？といういくつかの問い合わせがきている。
具体的にどうなっているのかの情報がいまいちわからない。
提案：一度意見交流会をしたい。
2月13日（木）19:00～
「仮設」ＮＧＯにて

市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラム報告と重油災害の件については別のページに掲載します。

“ざっくばらん”に、ぼちぼちね・・・

第１、第３水曜の「議決権をもたない全体会」は、第１回、第２回は移送プロジェクトをテーマに、第３回は２月５日の19:00から事務局１Ｆにて行われました。第３回の最初に、この会にも名前が欲しいと、“ざっくばらん”と命名されました。

第３回はなんと20名が参加。「今後の被災地についてどう思うか」という壮大な？切り口でしたが、かつての“無言の行”のような全体会からは想像もつかないほど、よどみなく話しが続きました。もちろんそれだけ課題が重要なこともありますが、ここ数回の全体会での“全員発言”や共同プロジェクトが功を奏し、みなさんの関係が深まって、しゃべりやすくなってきているのではないでしょうか。

そんなざっくばらんなおしゃべりのなかから、今後の支援活動や「仮設」ＮＧＯの在り方を考える上で、重要なキーワードがいくつもでてきましたので、以下に挙げておきます。　（たま）

被災地の課題

・心のケア
・医・食・住➡意・職・自由
・個人補償
・県外避難者
・空き仮設の利用＝恒久住宅への移行
・居住権（行きたくない公営住宅に移るのではなく、住みたいところに住む）
・生存権、生活保護
・95年はボランティア元年、96年はネットワーク元年、そして97年はバランス元年。
・被災者自身の精神的自立が必要
・雇用創出をプログラムの中からつくり出す

ボランティアの関わりと課題

・今後：継続ｏｒやめるｏｒ連携ｏｒ合体・・・どこまで関わる？
・共同プロジェクトの良さ
・政治とボランティア
・ボランティアセンター、社協「地域福祉」＝「仮設支援」

95年はボランティア元年、96年はネットワーク元年、そして97年はバランス元年。

「仮設」ＮＧＯの現状

「仮設」ＮＧＯは来年度継続可能（人・物・金）？
みんなで支える会

「仮設」ＮＧＯとしてやること

調査・情報発信
ミクロ（現場での活動）とマクロ（被災地全体を見た提言）の両輪が必要

その他

ＮＰＯ法案等についての勉強会の開催
伝える工夫、聞く工夫

2月のみんなの活動予定

（こちらに届いている範囲でお知らせします。）

6日（木）　・じゃりみち３４号発行（; ;）
8日（土）　・シンポジウム（村井）
　13:00～17:00 神戸市教育会館
10日（月）　・プロジェクト1-2 事務所開き
12日（水）　・全体会 18:30～　阪神淡路コミュニティ基金
13日（木）　・日本海重油災害について
　19:00～ 「仮設」ＮＧＯ
20日（木）　・生活復興県民ネット
　14:00～　フェニックスプラザ２
　・じゃりみち３５号発行。。。^^;
16日（日）　・ゆいまーる神戸 南落合茶話会
24日（月）　・メモリアルカンファレンス（ガレキ・パネル）
　国際会議場にて
25日（火）　・西ネットワーク会議
28日（金）　・講演（石井）小田原市

情報コーナー

♥冷蔵庫ください!!!

須磨区の高倉台仮設住宅のふれあいセンターの冷蔵庫がつぶれてしまいました。炊き出しなどを良くやるので、欲しいんです！
問い合わせ：プロジェクト 1-2　有光まで
TEL：078-576-7495

★毛糸あります

手芸作品にいかがですか？　新品、もあります。ご希望の方は事務局　山田まで

♣県外避難者の集い（京都）

3/22（土）14:00～16:00　無料
場所：京都府立総合社会福祉会館　ハートピア京都
（京都市中京区烏丸通丸太町南）
問い合わせ：県外避難者支援全国ボランティアネットワーク
中西　TEL：06-443-3808

未使用　てれふぉんかーど、く・だ・さ・い♡

＜仮設は今…＞

西区編

こんなにもてていいのだろうか。お年寄りに、である。あっ、また抱きつかれた。子どもに、である。

私が昨年の11月からの３ヶ月間を過ごした西神第７仮設住宅は高齢者の姿がめだつのですが、ここは異国？と思わせるかのように、私はよくファーストネームで呼ばれたりしたものです。

どこへ行っても、どうも私はその層の人たちのハートを掴みがちなようです。"老若男女問わず"といえばよく聞こえますが、要するに同世代からはいまいちというか･･･。

そんな私が西神第７仮設住宅に出会ったのも、今となっては自然の流れだったのかもしれません。この仮設住宅は高齢者の占める割合が65歳以上で63%と高く、おかげで私は生まれて初めての神戸ライフを気の合うメンバーに囲まれて過ごすことができました。

96年11月１日、私が初めて向かった西神第７仮設住宅は、イチローの存在によってかろうじて耳にしたことのあった「グリーンスタジアム神戸」を越えてさらに郊外にあります。駅からニュータウンを通り過ぎて到着するせいか、家々が皆同じ顔をしているせいか、それとも、その日がどんよりと曇っていたせいか、殺風景という第一印象をもったことは否めませんが、私の中にはそのままの状況がすーっと入ってきて、翌日からはそこに通うことは自分にとって即日常となり得たようです。

私の活動は、仮設住宅内の「西ふれあいセンター」の中にある「ふれあい喫茶」のお手伝い、体の不自由な方のお宅の掃除、洗濯、買い物、お喋り相手（自分も喋りまくっていた。）、電池交換、目配りなどでした。主婦のボランティアが多い中で、若さが売りだった私は、第７仮設住宅内を連日駆け回っていました。

私のいた３ヶ月といえば、クリスマス、年越しそば、お餅つき、１月17日の震災２年後のイベントなど、期せずして行事続きの季節でした。炊き出しやバザーでごったがえす人々、それを追うマスコミ陣、それはもう大騒ぎでした。

１月17日を過ぎると、それまでの嵐のようなマスコミの取材攻撃がまるで嘘のように、平穏な日々が戻ってきました。と同時に、私が東京へと帰る日が近づいてもきたのです。

喫茶などで特に私が仲良くしてもらっていたある人に、もうすぐ帰る旨を伝えると、いつもなら「はよ帰れ」とか「静かになってええわ」とか言うはずの彼が、「ふーん、そうか･･･。帰る場所があっていいねえ･･･。」とつぶやいていました。

その言葉に私は、「仮設住宅＝仮の住まい」での切なさを感じずにいられませんでした。私は取材の人や仮設住宅をちょっと覗きに来た人が、仮設住宅での全ての事柄を震災を結びつけることに嫌悪感があり、仮設住宅をあえて特別視するのを避けていました。ここには日常がある、と考えたからです。でも、たとえここに日常があっても、やはり「仮の住まい」でしかないのです

仮設住宅での生活が２年目を迎えようとしています。トイレや流しの故障、天井のガス漏れ報知機の電池切れ、電気切れ、目配りの依頼など、家の中の相談も毎日のように受けました。私はすっかり電池交換のプロとなりました。仮設住宅の住宅状況はつらい時期を迎えているように感じます。

西区のはずれの仮設住宅は、風を防ぐ樹木もなく、ふきっさらしのようで風がピューピュー吹いています。神戸が最も寒くなる２月を後にして、帰郷してしまった私ですが、西神に早くあったかい春が来ないかなーとばかり思っています。

阪神高齢者・障害者支援ネットワーク　村野 麻紀

いくぞ　やるぞ　ボランティア!?　寄稿

げっ、このトイレは何？　何で夜に鍵をかけないの？ この布団、ダニ住んでないかな？というのが私のここに着いたときの第一印象だった。正直言って・・・。

でも次第に慣れてきた。今は、自分の家でくつろぎたい気持ちも反面あるけど、もう帰ってしまう事が残念な気持ちもある、というのが本当の気持ちだ。

私は、学生生活が終わろうとしている時になって、自分探しがしたくて無理を言ってＮＧＯにスケジュールを取ってもらった。非常に自分勝手（？）な動機からボランティアを思い立ったのだった。

活動形態としてはＮＧＯから他の団体に一日ずつ派遣される形で行わせてもらった。１日目餅つき、２日目ふれあい喫茶、３日目手芸教室、４日目事務作業をした。１日目、仮設住宅のおばあちゃんに縁起物の（大安吉日にしか作らない）ビーズで出来たキーホルダーをもらった。２日目、独り暮らしのおじいちゃんに自筆の絵をもらった。３日目、仮設住宅のおばあちゃんに「またきてね」と声をかけられた。どれも嬉しかった。というのも、新顔であるハズの私に対しても親しんで接して下さっている、と感じたからだった。そして、ひごとに自分の肩の力が抜けていくのがわかった。恥ずかしながら、今までボランティアをしたことがなかったので、おそらく４日間いずれも要領がつかめず、仮設住宅の方々なども不器用に接していたのだと思う。しかし、すこしだけどコミュニケーションが取れたことから、こちら側が安堵感を与えられた４日間だった。

もっと、長期間継続してやれば、もっと大変な場面もあると思うけれど、見えてくるものも多いと思うし、与えられるものもきっともっと大きいんじゃないか？ちょっとやってみただけで生意気なことは言えないけれど、いろいろ感じさせてもらって良かった。自分探しはできたかどうか今すぐにはわからないけど、非常に貴重な毎日だった。来て良かった。中途半端な形で突然来たにも関わらず受け入れて下さったスタッフの方々、ありがとうございました。

T. A.

第２回市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラム　報告とお礼

第2回市民とNGOの「防災」国際フォーラム
組織委員長　高村　勣
実行委員長　芹田健太郎
事務局長　草地　賢一

暖かい日々が続いた大震災２周年でございました。皆様にはご健勝にてこの２周年をお過ごしになったと存じます。

1月17～19日の新聞・ラジオ・テレビ等で報道のとおり第２回フォーラムは盛況の内に終了いたしました。皆様には組織委員として、実行委員として、又シンポジストとして、あるいは会場においてさまざまな形でご尽力下さり誠にありがとうございました。加えて、500人を越える若者を中心とした事務局ボランティアの活躍も心に残りました。

さて、第２回フォーラムの特徴は、「拡がり」でございました。北海道から九州に及ぶ16ヶ所で支援の集会が開かれ、また東京では直接に私たちと連携して開催された「兵庫アートウィーク・イン東京」が同じく盛況でございました。神戸の会場にも全国各地から、メキシコ・中国雲南省から参加者が来られました。連携して展開された「コープボランティアフェスティバル」も素晴らしいものでした。参加者数はフォーラム単独で約23,000人、ボランティアフェスティバルと合算しますと約68,000人となりました。この中には「トラックフェスタ」の参加者約5,000人も含まれます。他に仮設住宅団地各地で開かれた同時開催の文化祭などを加えると70,000人をはるかに越える数字となります。

これからの作業は、別紙の「提言100」「'97神戸宣言」を基にした市民による復興計画案の具体化と提言です。その意味で98年1月の３周年に向けて新たな出発が必要であります。

今後とも格別のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

とりあえず終了のご報告と心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

とりあえず、お礼と簡単な報告です。きちんとした報告は、これ以降にぼちぼちいこうとかんがえています。とにかく、無謀な量のスケジュールを大きな事故無く終了できたのは本当に良かったと思います。全国からの支援イベントも少しずつ感想が返ってきていますが、その地域でのつながりができたりしてなかなか良かったみたいです。これから神戸宣言と100の提言をきちんとまとめ、そしてきちんと提言していく作業が残っています。まだまだ、始まったばかりですね。下の文章はわが事務局長いっちーと、代表の村井くんの報告です。

市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラム報告

イベント、展示では仮設住宅の人の作られたものの販売で、売り上げ約93,000円。結構な数が売れた方だと思います。また仮設住宅での市民文化祭（交流会etc）も無事に終わりました。　（市川）

17日については8,000本のろうそく追悼も行われ、多数の参加者があった。16～17日の5:46に伊丹市でのろうそく追悼が行われ、そこからちびくろ救援ぐるうぷの３人の子たちが走って兵庫区の真光寺に火をつないだ。メキシコの人も合流し、よい追悼式に。

「神戸宣言'97」と「100の提言」は、今年度の１年をかけ、これをどう具体的にしていくのか？というのが大きな課題。「仮設」ＮＧＯとしてもプロジェクトとして、行政への提言としてこれらの課題に対して動いていかねばならない。そういう意味での行動計画を作ることが急がれる課題である。今年1年は正念場。

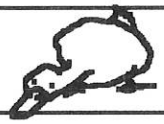
「神戸宣言」と「100の提言」はじっくり読んでいただけたら。フォーラムの前に作ったものではなく、当日その場で作り上げた、非常に重たいもの。これをただうたっただけではどうにもならない。

また、それと関連して演劇キャラバンというのを初めて行った。震災を解りやすく演劇で伝えていこうというもので、今回プロジェクト 1-2の有光さんと事務局の隆太が、１月21･22東京、神奈川で開催。１日目70名、２日目100名余りが入場した。内容もわかりやすく、手応えあり。忙しい中、よく作ってきたなと感心した。今後「仮設」ＮＧＯの事業として継続できれば。資金面が特に検討課題。

（村井）

100の提言はページ数が多いため同封できませんでした。ご希望の方は事務局までお気軽にどうぞ。

ふきちゃんのキャラバン日記



プロジェクト結ふ　石井布紀子

3年目のキャラバン

ここ数回、震災３年目を迎えるにあたって、市民が市民の手で復興計画案を作ろうという試みを中心としたイベント『市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラム』のことをお知らせして参りました。全国あちこちで、このフォーラムを支援したいという声が上がり、がレキや写真パネルの展示をはじめ、シンポジウムやフリーマーケット、コンサートや炊きだしや演劇舞台など、たくさんの企画が生まれてきました。次号のじゃりみちでは、これらの主催者の方から報告や投稿を頂きたいと、準備を進めております。全国からのメッセージをこのコーナーにお届けする予定です。どうかご期待下さい。私はとっても楽しみにしています。

さて、全国各地に皆さんと被災地の皆さんとが一緒になって、あるいはそれぞれの事情や個性をいかしながら、復興を実現してゆく１つの道具となることを願って、この『キャラバン日記』を続けて参りましたが、そろそろ今後の展開についてさらなる工夫が必要になっているのではないかという気がしています。

３回目の１月１７日を迎えて、マスコミの影響もあり、一時的に人々の関心が被災地に寄せられたようにも思いますが、それでも、震災への関心の度合いについて、温度差はますます広がっていくように感じます。そんな中で、ラクラク活動を継続できそうな団体・個人の方って、少ないんじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか？資金難・興味関心のばらつき・・・などなど、人・物・金・情報の出入りの現状から、「これから、何か改善が必要なんじゃないかな？」って感じているのは、私だけではないと思うのです。

このごろ、改めてふっと思うのは、「全国各地での支援活動の継続について、被災地から出来ることは何なのだろう？」ということです。やっと“全国キャラバン”という言葉への認識も広がったところで、改めて原点に立ち戻る問いがでてきてしまいました。これからは、全国各地での催しの様子や情報交換の内容について、被災地の人たちにも知ってもらう努力を進めてゆくことに力を入れたいし、被災地内外の意見交換の機会を増やしたり内容を深めてゆく工夫を続けていきたいけれど、具体的な方法として、有効な方法って何なのでしょうか？まだまだ、わからないこと、みなさんと一緒に考えてゆきたいことがいっぱい・・・のようです。

仮設支援ＮＧＯ連絡会では、ここ数ケ月間、何度も何度も議論を重ね、今後は、「被災地の復興にむけて、しなければならないことと連携について」、さらに意見交換を進めてゆくことになりそうです。昨夜も、「ざっくばらん」という有志の集まりが生まれ、ワイワイガヤガヤ本音のトークが続いたのですが、今後はそんなこんなの機会を使いながら、全国のみなさんへとの情報交換のあり様についても、話し合うことができるようになるでしょう。

近頃の「仮設」ＮＧＯの全体会って、元気が出る会ですよ。笑いも多いし、深い話も多くて、私はいつもホッと力をもらって帰っています。誰にでも開かれた場なので、全国のみなさんもタイミングが合えば、加わって下さいね。そして、これらの場に、「情報不足をお感じになっていらっしゃるであろう全国の方々の生の声をどんな風に届けることができるのかしら？」という話題も生まれてくる予感がします。被災地で活動を継続してゆこうとする支援グループ間の連携と、全国の方々の連携では、多少、戦略や必要なことが違っているはずです。「じゃあ、何をどう工夫すれば、いいのかな？」という問いかけをみなさんと共有していきたいと思います。

３年目を迎えて、また１から出直しという気持で、このキャラバン日記についても検討したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。では、次回は、みなさんからの声でのページにご期待下さい。

第２回市民とＮＧＯの「防災」国際フォーラム
’９７　神　戸　宣　言

私たちは阪神・淡路大震災から３年目に入った１月17日から３日間、神戸市内で第２回「市民とＮＧＯの『防災』国際フォーラム」を開き、『くらし再建　道筋ここから』のテーマのもとに多くの被災者、市民、ＮＧＯがともに多彩な催しと語らいの場をもった。神戸、西宮の仮設住宅では被災者が創作の喜びを表現した作品を展示し、全国からアートトラックが駆けつけ、奥尻、東京、川崎、松本、島原、メキシコシティ、中国・雲南など国内外からも多数が参加した。また札幌、山形県鶴岡、宮城県石越、長野、福岡など全国16地域での支援イベントの開催、そして被災地の仲間が催す「兵庫アートウィーク・イン東京」とも連携するなど、第１回フォーラムからさらに連帯の輪が広がった。

被災地では遅々と進まぬくらし再建に苦しみ、まちづくりでは意見や利害の調整に悩んでいる。フォーラムは県外避難者を含めた被災者の困難な日常生活からでてきたナマの声を千枚の「声のカード」として集約し、現状の分析を出発点にさまざまな課題を個々に議論していった。

私たちは「おとなも、子どもも、人として誇りをもって住まい、くらすまちと社会」の実現をめざすことで一致した。

くらし再建への道筋は、第一に、もっとも過酷な状況に苦悩する被災者のくらしを公的支援の拡大によって底上げすることである。また、くらし再建はまちの再建、住宅の再建、医療・福祉・教育など社会のもろもろのシステムの再建、仕事と産業の再建など、生活を支える基本的要素の再建があって、はじめて成り立つものである。こうした道程を一つひとつ積み上げていく具体的な計画と実現への手順を求めたい。

二つ目は、住民がまちづくりを担う力量を高め、主体的に立ち上がり、自らの発想でまちづくりを進めていくための条件整備をはかることである。行政はそのための環境を整え、住民と真のパートナーシップを築ける新しい枠組みづくりに踏み出すべきである。

三つ目は、私たち自身も意識を改革し、多様で多元的な価値を認め合うよう転換していかなければならない。それは性差を越えた男女協働社会の形成や外国人と文化の違いを認めたうえで舞台を共にする多文化共生社会など、生活や社会の隅々で矛盾を解決していくことである。震災直後、私たちが互いに手を差しのべあい、助け合った記憶を“震災ユートピア”に終わらせてはならない。

私たちはフォーラムの各会場で語られた発言から「育てる」という言葉を心に刻みたい。この１年、私たち市民の中に芽吹いてきた意識の変化を育て、地域を育て、政治と行政を市民が育てることを意味する。震災復興の視点でいえば、望ましいくらしとまちを描いた復興計画を、市民自身の手でつくることである。

こうした行動は、くらしの中から新しい市民社会をつくっていくことにつながり、その成果は大きく花開くであろう。

私たちはフォーラムを通して、くらし再建を具体化するために「１００の提言」をまとめた。この提言を柱として、こんご「市民のつくる復興計画」を策定していく。そこでは、被災地の復興を通して将来の夢が紡ぎだせる、くらしとまちの姿をぜひ描いてみたい。

12年前に大地震に見舞われ、いまだに復興努力を続けているメキシコからの参加者は「忘却は最大の敵」というキーワードを私たちに残してくれた。つらい記憶は忘れたいが、大きな現実を忘れない、忘れさせないためには内外に骨太の情報を発信し、ネットワークを広げていかなければならない。被災地神戸で私たちがつくりあげていく変革と前進の実績が、21世紀の日本と世界を切り開く情報となるに違いない。

世界が見つめている被災地神戸の復興を私たちが担っていく責務がここにある。

1997年１月19日

ナホトカ号海難・流出油災害

97年１月２日02時41分、ロシア船籍タンカー「ＮＡＨＯＴＯＫＡ（ナホトカ）」の事故により、広範囲にわたって積載していたＣ重油が漂着。自然環境破壊だけでなく、漁業・観光業など幅広く被害をもたらしています。

いま、この重油事故（災害）に対して、仮設ＮＧＯとしては何をすべきだろうか？
会員団体さんの中でも日本海に向けて重油回収のお手伝いに行った方もたくさんいらっしゃいますが、なにしろ、情報が錯綜しているので、いま、現場では何が一番必要なのか？というのが、良く見えていないというのが現状です。私たちは、その必要なことを現場に行った方々とともに整理し、「仮設」ＮＧＯとしてできることを実行したいと思っています。

97年２月13日（木）　19:00～　仮設ＮＧＯ事務所

みなさんのご参加をお待ちしています。

ナホトカの船首がすぐそばに見える、福井県三国町の重油災害ボランティアセンターの立ち上げに大きな働きをした中の１団体でもある、日本災害救援ボランティアネットワーク（ＮＶＮＡＤ）さん。現在は、後方支援として縁の下の力持ちに徹し、様々な形での支援を行っています。
現場の大変さも然る事ながら、後方支援という地味な上に大変な活動を行っている団体支援ということで、わずかではありますが、５万円を97年１月23日付けで日本災害救援ボランティアネットワークさんにお届けしました。現場（フォワード）と、後方支援（バック）のバランスがとれて、はじめて大きな力を発揮できるもの。大きな事故・災害となると、どうしても現場に資金も物資も流れがちになります。このあたりの問題点もふくめ、今後の日本災害救援ボランティアネットワークさんの活動を期待しています。

村井くんの依頼で、じゃりみち用に義援金受入窓口一覧とか、重油災害ボランティア受入窓口の一覧をつくってほしいとのことでしたので、作ったことはつくったのですが･･･調子にのりすぎて、じゃりみちに入りきらないというお粗末なことになってしまいました。

今回つくった資料は、あっちこっちの情報を全てごちゃ混ぜにしたものです。よって、まだまだ不充分なものですが･･･
・必要物資集（今回、準備物＆物資として必要とされた、またはされているもの）
・携帯品集（必要物資集の中から、現地作業者用に抜き出したもの）
・重油災害ボランティア連絡先一覧
（いろいろとまとめたり削ったりしてあります。まだまだ未完成。）
・義援金送り先一覧
（これもいろいろとまとめたり、加えたりしたもの。完成率約６割だと思います。）
〈抜粋集〉
・重油回収中の健康上の注意事項
・毒性に関して
というものです。

重油回収は、重油に関わる知識を持った上で行動しないと、生命にもかかってきます。そんなこともあり、専門知識を持っていない人でも、このようなことは危険だという最低限のことを知ってほしいので、作りました。必要な方がいらっしゃいましたら、「仮設」ＮＧＯ事務局までご連絡下さい。

なお、毒性に関してのお問い合わせは、
（財）日本中毒センター　つくば診療センター内　0990-50-2499（24h）
（財）日本中毒情報センター　大阪中毒１１０番　0990-52-9899（09:00～07:00）
に、お願いします。